吉野川橋ものがたり 第4回 穴吹橋

吉野川中流に架かる穴吹橋（写真提供／徳島県県土整備部高規格道路課）

←昭和3年1月18日、架橋工事中の旧穴吹橋

↓昭和3年4月22日、旧穴吹橋開通式での三世代渡り初め。盛大な式典が行われました

（徳島河川国道事務所発刊「ふる～ぶ Vol.77 2006年7月号」より）

↓優美な曲線を描く在りし日の旧穴吹橋（美馬市教育委員会発刊「私たちの脇町想ひ出集」より）

清流に映える朱色がシンボルカラー。2代にわたって親しまれる吉野川中流の名橋

美馬市穴吹町～脇町間を結ぶ穴吹橋は、平成2年（1990）、名橋として親しまれた「旧穴吹橋」に替わって架けられました。橋長533m、すっきりとしたデザインに、朱色が目に鮮やかです。

旧穴吹橋は昭和3年（1928）4月、三好橋に次いで吉野川に二番目に架けられた抜水橋（ばっすいきょう）です。設計は日本を代表する橋梁設計技術者・増田淳（じゅん）。橋長416m、国内初となるゲルバー式トラス橋で、その構造・デザインの美しさは東洋一と称えられ、同じ増田氏の手がけた吉野川橋、三好橋と並んで「吉野川三大橋」のひとつに数えられました。周辺住民の歓喜の声で迎えられた旧穴吹橋は人々の生活を支え、中流域の交通の大動脈として60年以上にわたって地域の発展に大きな役割を果たしました。

穴吹川のほとりに移設された旧穴吹橋のトラス構造。町のランドマークとして親しまれています（写真提供／徳島県県土整備部高規格道路課）

平成2年（1990）、約500m下流に現在の穴吹橋が開通し、役目を終えた旧穴吹橋は平成4年（1992）に撤去されました。しかし、名橋を惜しむ声は多く、穴吹町（現在は美馬市）は県道田方～穴吹線にトラス橋の一部を移設し、歴史遺産として保存することになりました。

現在、穴吹橋の南岸には、顕彰碑とともに旧穴吹橋を象（かたど）った小さなモニュメントが立っています。親柱に目をやると……旧穴吹橋と同じデザイン！――「初代」へのリスペクトを随所に見ることができます。

若い世代からのメッセージ

ゴミのないきれいな川で遊びたい

交流体験 in よしのがわ（中流編）に参加した 矢田千紗（やたちさ）ちゃん 悠真（ゆうま）くん

午後からはいよいよカヌー体験。午前中のちょっと緊張した表情から一転、元気いっぱいの笑顔を見せてくれました

交流体験inよしのがわ（中流編／令和3年7月22日開催）に参加してくれた矢田千紗ちゃん（9歳）と悠真くん（7歳）のおふたりにお話をうかがいました。

ー午前の講習の感想を教えてくださいー

千紗ちゃん：午前中の水難事故防止講習では、川で安全に遊ぶための説明を聞いたあと、ライフジャケットを着て流れる練習や、スローバックという、溺れている人を助けるためのロープを投げる練習をしました。スローバックをうまく投げることができて楽しかったです。ときどき家の近くの川でお父さんと弟と一緒に魚を捕まえたりして遊ぶことがあるので、これからは川に行く時にはライフジャケットを持って行ったり、遊びに夢中になって川の中に入りすぎないように注意したいと思いました。

悠真くん：流れの速いところに行ってちょっと怖かったけど、川で遊ぶのが好きなので楽しかったです。

ーどんな川で遊びたいですかー

千紗ちゃん：ゴミのないきれいな川がいいです。お父さんから、新町川は昔ゴミがたくさんあって汚い川だったけれど、たくさんの人の努力で今はきれいになってきていると教えてもらいました。他の川でも、ゴミを拾う人がちゃんといたらきれいな川でいられると思うので、みんなできれいな川にしていきたいです。

悠真くん：僕もゴミのないきれいな川がいいです。僕は魚を見たり、捕まえたりするのが好きなので、魚が気持ちよく泳げるようにゴミのない川にしたいと思います。

スローバックを投げる練習をする千紗ちゃん

※実際はスローバックを子どもが使うのは危険ですが、水難事故防止講習では、使い方を知ってもらうために参加者全員に練習をしてもらっています